幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第３６号
令和　４年　５月　１日

幸若紙芝居続編制作中

紙芝居続編の一部

平成一九年町内の団体「にじの会」により、幸若舞関係の紙芝居が作成され、好評を博してきました。しかし、本編は、桃井直詮（幸若丸）による「幸若舞」の創作までで、その後の経緯については、触れられていませんでした。

そこで、その後信長・秀吉・家康三代の厚遇を得たことや、西田中周辺に知行地を得たことや、徳川中期からの衰退動向、幕末・明治維新における消滅、さらには橋本左内などの周辺事情を追加して、分かりやすい続編を制作することになりました。

その準備は令和二年から始まり説明文は青山会員、作画は沢崎副会長が担当して現在も作業が続けられています。

全体として、全一五場面が描かれ、明治維新で完結する構想です。

本紙芝居は、各種イベントにおける幸若舞のＰＲ活用、学校での出前授業、見学・視察者への説明に活用する予定ですが、会員の皆様方のご提案・ご意見をお願いいたします。

また、本続編をアピールする適当なタイトルも募集中です。

幸若舞物語、幸若舞の栄光と終焉、幸若舞のその後、　……

第7回総会開催のご案内！

本会の第７回総会（令和４年度）を下記により開催します。

日　時　　令和４年５月８日（日）午前１０時～

会　場　　越前町生涯学習センター・カメリヤホール

＊現代版幸若舞「左内」の披露があります。

＊当日年会費　２、０００円の納入をお願いします。

例会は隔月（偶数月）第2金曜日です

福井・左内公園で幸若舞上演

さる四月一七日、福井市左内公園で橋本左内顕彰会や妙経寺（左内菩提寺）などの主催により、第十回あすわ左内まつりが開催されました。コロナ禍の影響で三年ぶりの開催ということでしたが、好天に恵まれた一日でした。主催者から招かれて、幸若舞「左内」を上演しました。参加者には左内が幸若一族の子孫であることはもちろんこと、幸若舞を知らない人も多く、リーフレットも配布して、幸若舞のＰＲにつとめました。

左内立像

あすわ左内まつり
復活の幸若舞披露
3年ぶり開催

幕末の福井藩士橋本左内を顕彰する「第10回あすわ左内まつり」が17日、福井市左内町の左内公園で3年ぶりに開かれた＝写真。左内の生涯を題材に、昨年新しく創作された曲舞「幸若舞」が披露されたほか、左内の足跡を巡る散策や茶席など地元住民らは多彩な催しを満喫した。

足羽まちづくり推進委員会などが、左内への関心や理解を深めてもらおうと開いている。新型コロナウイルス感染拡大を受け2年連続で中止していた。

「幸若舞」は越前町朝日地区が発祥の地とされ、昨年〝現代版〟の幸若舞として復活した。公園内に設けられたステージに、「幸若舞の里づくり会」のメンバー8人が登場。開国に揺れる幕末に国を変えようと奔走するも、志半ばでこの世を去った左内の生涯を表現した舞をりりしく披露した。

足羽小児童による茶席では抹茶や菓子が振る舞われた。歴史のみえるまちづくり協会の語り部による足羽地区の寺を巡りながら左内の足跡を巡る散策も行われ、来場者は春の日差しが降り注ぐ中、思い思いに楽しんだ。（武居哲）

福井新聞　令和4年4月20日記事

幸若佐々生墓地清掃実施

本年も、さる四月一〇日、恒例の幸若佐々生墓地の清掃を行いました。好天に恵まれ、会員九名の参加のもとに、午前九時から約二時間汗を流しました。

越前町の文化財に指定された史跡ですが、一年に一回の清掃では手が回らず、落ち葉や枯枝が散乱して、県外者などの視察には少し気が引けそうです。

清掃中

清掃終了

桃井雄三家寄贈幸若文書文化財指定

越前町教育委員会

平成３０年３月、敦賀幸若家の流れをくむ桃井雄三家（埼玉県）が所蔵する幸若関係文書の寄贈を越前町が受けました。

以来、専門家による文書の整理分析が行われ、その成果の一部が、昨年秋織田文化歴史館で発表されたことは、本誌でもこれまで掲載してきました。

そして、このほどこれら文書資料が町の有形指定文化財に指定されました。

今回指定された文書には、丹羽長秀からの幸若への領地安堵状とともに江戸時代中期に編纂されたとみられる２５曲の歌謡集「短中之部」があり、その中には祝言歌謡も含まれ、はじめ戦場で舞われていた幸若舞が変質していったことがうかがえる。

ほかに敦賀幸若家の家系図や屋敷間取り図などもあり、当時の幸若一族の権勢のほどが知られる資料となっています。

歌謡集・短中之部

当面の主な日程

５月　８日（日）　令和４年度第７回総会、幸若舞「左内」披露
５月２２日（日）　西田中区健康ウォーク
５月２７日（金）　幸若歴史愛好会
６月２４日（金）　幸若歴史愛好会

幸若歴史愛好会は毎月第4かまたは最終金曜日開催です

幸若歴史愛好会開催

3月25日
4月22日

青木豊昭先生を講師として、第七回「河川と人々のくらし」、第八回「歴史的に見た全国での地位」が、それぞれ　三月二五日、四月二二日に町図書館で開催されました。

道路や鉄道交通が発達する明治以前の物資の運搬の大部分は舟運が担っており、日野川水系でもたくさんの「舟場」があり、支流の天王川には、田中、市、宝泉寺など和田川には和田に舟場がおかれて、福井城下や九頭竜川を経由して、三国湊・日本海と連絡していた。現在の宝泉寺・森家は舟着場管理者の子孫である。

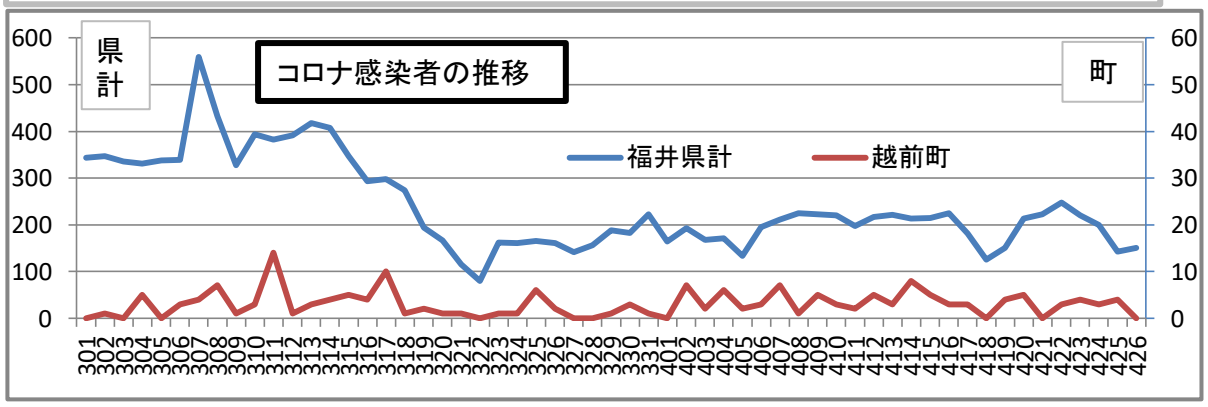
また、四月二二日には、会員一二名が参加して「歴史的に見た越前国の地位」をテーマとして開催されました。律令時代の越前国（まだ能登や加賀が分離されるまえ）は、律令政府が定めた「大上中下」の四ランクの「大」に位置づけれる大国であった。

この背景には、豊かな穀倉地帯を擁し、渤海国との交流交易拠点であったことがあり、赴任する国司にも人気があった。

戦国時代には、一乗谷を拠点とする朝倉氏一族を、武田信玄・織田信長とともに天下統一を実現する候補者に掲げている古書もある。さらに、信長は宿老・柴田勝家を、秀吉は宿老・丹羽長秀を、家康は次男・結城秀康を配置して、越前国を重視していたことが理解される。

日野川水系の主な舟場

令和4年度の歴史愛好会開催月日およびテーマ予定

いずれも午後１時半から町図書館で

４月２２日	歴史的に見た全国での地位	１０月２８日	戦国大名朝倉氏の歴史と文化②
５月２７日	継体天皇①	１１月２５日	朝倉遺跡・博物館見学
６月２４日	継体天皇②	１月２７日	戦国大名朝倉氏の歴史と文化③
７月２２日	継体天皇③	２月２４日	戦国大名朝倉氏の歴史と文化④
９月２３日	戦国大名朝倉氏の歴史と文化①	３月２４日	地元の歴史めぐり